

Unlock and Open!



第6回 SPARC Japanセミナー 「日本発オープンアクセス」

2010年10月20日(水)

openaccessweek.org

オープンアクセスウィーク <http://openaccessweek.org/>

- ▶ 世界的に様々なイベント、活動が行われています
 - ▶ 2010/10/18(月)～2010/10/24(土)
 - ▶ 今年は3回目
 - ▶ 2008年はOA day
 - ▶ 2009年からOA week
 - ▶ SPARCの公式サイトによると2010年は
 - ▶ 94の国で900名近く参加

A screenshot of the Open Access Week website. The header features the logo and the text "OCTOBER 18 - 24, 2010". Below the header is the slogan "LEARN. SHARE. ADVANCE." and a navigation menu with links like HOME, ABOUT, INVITE, MY PAGE, MEMBERS, GROUPS, Q & A, NEWS & TOOLS, 2010 EVENTS, DOWNLOADS, and BUY OA STUFF. The main content area includes a video player for "Official Open Access Week Kick-off Online Event" and a "Latest Videos" section with a red box highlighting a video titled "Message for Open Access: TODOROKI, SHINJI (OP...".

▶ |

日本の科学技術政策における研究成果公開の位置づけ

- ▶ 第4期科学技術基本計画(H23-27)策定に向け
 - ▶ 「科学技術基本政策策定の基本方針」の公開
(平成22年6月16日)総合科学技術会議基本政策専門調査会
<http://www8.cao.go.jp/cstp/siryo/haihu91/haihu-si91.html>
- ▶ 「国際水準の研究環境の形成」の一環
 - ▶ 機関リポジトリやオープンアクセスを推進する
- ▶ 「国民とともに創り進める科学・技術政策」の一環
 - ▶ 研究者はそれぞれの研究について、内容や成果を分かりやすく発信する取組みを進める必要がある

日本の科学技術政策における研究成果公開の位置づけ (参考) 総合科学技術会議 (第91回) 配付資料

科学技術基本政策策定の基本方針 概要(1/2) 資料3-1

I. 基本理念

ダイナミックな世界の変化と日本の危機

- ダイナミックな世界の変化、新興国の台頭、日本の相対的地位低下
- 地球温暖化等の世界規模での諸問題や、国内における世界最速の高齢化・人口減といった課題の深刻化
- イノベーション・システムの構造変化への対応の遅れ、科学・技術・イノベーション政策の戦略的展開の必要性

国家戦略における基本計画の位置付け

- 国家戦略としての「新成長戦略」を踏まえ、より幅広い観点から深化・具体化し、10年先を見据えた5年間の計画
- 我が国の科学・技術・イノベーション政策の基本方針

→ 国家戦略としての科学・技術・イノベーション政策の一体的推進

第3期基本計画の実績と課題

- 科学・技術政策と他の重要政策との連携が希薄
- 科学・技術の発展が必ずしも課題解決に結びついていない
- 諸外国が科学・技術の強化を図る中で基礎研究の更なる質向上
- 人材育成や活躍促進により、若い世代が未来を切り拓ける環境実現
- 科学・技術への期待が高い一方、広く国民の支持・共感が得られていない

2020年を目指すべき国・社会のすがた

- ① 我が国の様々な課題を強みに転換し、持続的な成長を実現する国
- ② 安全で質の高い社会及び国民生活を実現することが国民の誇りとなる国
- ③ 地球規模課題に国際協調・協力の下で取り組み、課題解決を先導する国
- ④ 科学的な「知」の資産を創出し続けるとともに、それを育む環境を有する国
- ⑤ 若者が夢と希望を抱ける国

II. 国家戦略の柱としての2大イノベーションの推進

グリーン・イノベーションで環境先進国を目指す

- 環境に配慮した国民生活の質の向上を実感できる、持続可能な低炭素・自然共生・循環型社会の実現 —
- 再生可能エネルギーへの転換、エネルギー供給・利用の低炭素化、エネルギー利用の効率化・スマート化、社会インフラのグリーン化
- ルール変更によりイノベーションを誘発する「ポジティブ規制」の活用
- 安全規制を限定解除する特区機能付先端研究拠点の創設
- 国際標準化による競争力強化戦略の策定・推進

ライフ・イノベーションで健康大国を目指す

- 少子高齢化社会において、国民が豊かさを実感できる社会の実現 —
- 予防医学の推進、革新的診断・治療法の開発、高齢者・障がい者の科学・技術による自立支援
- 基盤となる先端研究開発を総合的に推進する体制の構築
- 医師主導治験による探索型の構築型研究の実施
- レギュラトリー・サイエンスの推進
- 「ポジティブ規制」の活用

イノベーションの創出を促す新たな仕組み

- さまざまな課題解決型イノベーションが湧き起こる仕組みの構築 —
- イノベーション戦略策定・推進のための場としての「イノベーション戦略協議会(仮称)」の創設
- 出口を見据えた戦略的な研究開発を行い、イノベーション創出につなげる多様なオープン・イノベーション拠点の形成
- 先進的な中小・ベンチャー企業の潜在力を引き出す多段階選抜技術開発支援(SBIR)の本格実施、イノベーション推進のための特区の活用
- 新たな制度・規制による新市場の創出、公共部門におけるイノベーション促進

日本の科学技術政策における研究成果公開の位置づけ (参考) 総合科学技術会議 (第91回) 配付資料

科学技術基本政策策定の基本方針 概要(2/2)

III. 国家を支え新たな強みを生む研究開発の推進

○ 我が国が取り組むべき大きな課題を設定し、それを解決・実現するための戦略を策定

豊かな国民生活の基盤を支える

- 食料・資源・エネルギーの安定的確保
- 安全な国民生活の確保



マルチハロークレーダ

産業の基盤を支える

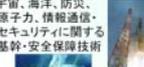
- 我が国の強みを伸ばす: ロボティクス、ものづくり技術、材料科学技術など
- 将来に向けて新たな強みを作り出す: ナノテク、エレクトロニクスなど



カーボンナノチューブ

国家の基盤を支える

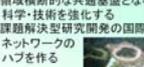
- 宇宙、海洋、防災、原子力、情報通信、セキュリティに関する基幹・安全保障技術



HIIAロケット

課題解決型研究開発の共通基盤を支える

- 領域横断的な共通基盤となる科学・技術を強化する
- 課題解決型研究開発の国際研究ネットワークのハブを作る



SPRING-X線自由電子レーザー

IV. 我が国の科学・技術基礎体力の抜本的強化

基礎研究の抜本的強化

- 独創性・多様性に立脚した基礎研究の強化
 - 研究者の意欲を高め、新たな挑戦を促し、全体的な質の向上を図るための改革の推進→大学の基盤的経費の充実、科学研究費補助金の充実と改革
- 世界トップレベルの基礎研究の強化
 - 国際研究ネットワークのハブとなる研究拠点の形成
 - 世界トップレベルの拠点を持つリサーチ・ユニバーシティ(仮称)形成

科学・技術を担う人材の強化

- 多様な人材の育成と活躍の促進
 - 教育内容の透明化や大学評価の充実などによる大学院教育の抜本的強化
 - 多面的な専門知識を持つ高度人材の育成と活躍促進(専門人材の地位確立や機動的に派遣する体制整備など)
- 人材の独創性と資質の発揮
 - フェアでバランスの取れた評価制度
 - フェューア・トラック制の流動性向上
 - 女性研究者の活躍促進
 - 次世代を担う人材の育成
 - 教員の研修機会、子どもの学習機会
 - の充実
 - 「科学甲子園」、「科学インカレ」

国際水準の研究環境の形成

- 大学・研究開発機関における施設・設備の整備・共有
- 大型研究施設・設備の国内及び国際的整備・利用
- 知的基盤、研究情報基盤の整備

世界の活力と一体化する国際展開

- 科学・技術外交の新次元の開拓
- 「東アジア・サイエンス&イノベーション・エリア構想」の推進
- 先端科学・技術の国際協力の推進

V. これからの新たな政策の展開

科学・技術システムの改革

- 我が国の科学・技術システムの強化
 - 研究開発法法の機能強化
 - 科学・技術に関するPDCAサイクルの構築
- 研究資金の改革
 - 資金配分主体の位置付けの明確化

国民とともに創り進める科学・技術政策

- 政策立案・推進への国民参加の促進
- 科学・技術コミュニケーションの新展開
 - 公的研究費を得た研究者の情報発信
 - 国立国会図書館・ゼジネス支援図書館との連携
 - 国会議員と研究者の対話促進

研究開発投資の強化

- 研究開発投資
 - 2020年度までに、官民合わせた研究開発投資のGDP比4%以上
 - (P) 政府研究開発投資のGDP比0%
- 民間投資を促進する仕組み・規制

「科学技術基本政策策定の基本方針」 「研究環境基盤の整備」より抜粋

- ▶ 論文等のデータを機関毎に保存・公開する電子アーカイブシステムである**機関リポジトリの充実、公的資金による研究成果(論文及び科学データ)の機関リポジトリや研究データベースでの公開**などにより、研究成果へのアクセスの容易化を図る。
- ▶ また、学協会が刊行する論文誌の電子化、国立国会図書館や大学図書館における文献の電子化など、人文社会科学も含む**研究情報のデジタル化やオープンアクセスを推進**する。同時に、国際的な情報ネットワークとの連携を深めていく。

<http://www8.cao.go.jp/cstp/siryu/haihu91/siryu3-2.pdf>

「科学技術基本政策策定の基本方針」
「研究環境基盤の整備」より抜粋

- ▶ 大学は電子ジャーナルの効率的・安定的な購読ができるよう、有効な対応方策を検討することが期待される。
- ▶ また、国はそれを支援する。

<http://www8.cao.go.jp/cstp/siryu/haihu91/siryu3-2.pdf>

▶ 8

「科学技術基本政策策定の基本方針」
「研究情報の分かりやすい形での発信」より抜粋

- ▶ 研究者は、それぞれの研究について、内容や成果を分かりやすく発信する取組みを進める。(中略)
- ▶ また、公的資金による研究論文は、可能な限り機関リポジトリに登録することとし、その際には、一般向けにも分かりやすい数百字程度の説明を添付する。

<http://www8.cao.go.jp/cstp/siryu/haihu91/siryu3-2.pdf>

▶ 9

SPARC Japan第3期の基本的な考え方

▶ 第3期(平成22~24年度)の基本方針

- ▶ 我が国の特色に見合った(ビジネスモデルに裏打ちされた)オープンアクセスを, 学会と図書館が協力して推進する。
- ▶ 学会と図書館を, オープンアクセス推進の車の両輪と捉える。
- ▶ 学術コミュニケーションの主役である研究者の議論・実践への参加を促す。

いいことだとは思いますが…

具体的にどうすればいいのかわからない

▶ 11

第6回SPARC Japanセミナーでは

- ▶ 日本の学術出版の在り方を広く俯瞰する立場から
林和弘氏(日本化学会、SPARC Japan運営委員)
- ▶ 人文系中小規模学会誌をリポジトリベースで創刊した研究者の立場から
村上祐子氏(東北大学)
- ▶ Nature等トップジャーナルに掲載された日本人著者の論文の著者レビューを公開する立場から
飯田啓介氏(ライフサイエンス新着論文レビュー編集人)

コーディネータ: 永井裕子氏(日本動物学会)
フロアを交えたディスカッション

▶ 12